

栃木県埋蔵文化財 センターだより

2006
6月

かまかいどう

特集 平成 17 年度栃木県内の発掘調査速報



せっかん
石冠 NO.1

石冠 NO.2

縄文時代の^{たてあな}竪穴住居跡 SI-395 (北から)

川戸釜八幡遺跡(日光市)

写真(右上No.1・左下No.2)の石器は石冠(せっかん)と呼ばれる縄文時代の晩期(今から約3,000年前から2,400年前)に使われたものです。形が冠(かんむり)に似ているのでこの名前がついていますが、頭に載せる冠ではありません。何に使われたかは様々な説がありますが、縄文時代の「まつり」や「まじない」の道具と考えられています。

石冠が出土した川戸釜八幡遺跡は、日光市(旧栗山村)の湯西川温泉から東へ約2kmにあります。遺跡

は縄文時代後期から晩期にかけての集落跡です。この石器は縄文時代晩期の^{たてあな}竪穴住居跡(SI-395)から、多くの土器や石器とともに壁際の床面に近い場所から、形の異なる2点が出土しました。写真で分かるように1点には赤と黒い色が塗られています。赤い色はベンガラと呼ばれる顔料で、酸化第二鉄(鉄の錆に近い物)を成分としています。黒い色は漆です。

(石冠No.1:幅15.2cm・高7.3cm 石冠No.2:幅10.6cm・高8.5cm)

《 も く じ 》

◎特集 平成17年度 栃木県内の発掘調査速報

- 表紙 川戸釜八幡遺跡……………1
- 栃木県内発掘調査位置図及び一覧……………2~3
- 埋蔵文化センターが行った発掘調査から
 - ハッケトンヤ遺跡…4 田島持舟遺跡…5
 - 菅田古墳群・四十八塚古墳群……………6
 - 森後遺跡……………7

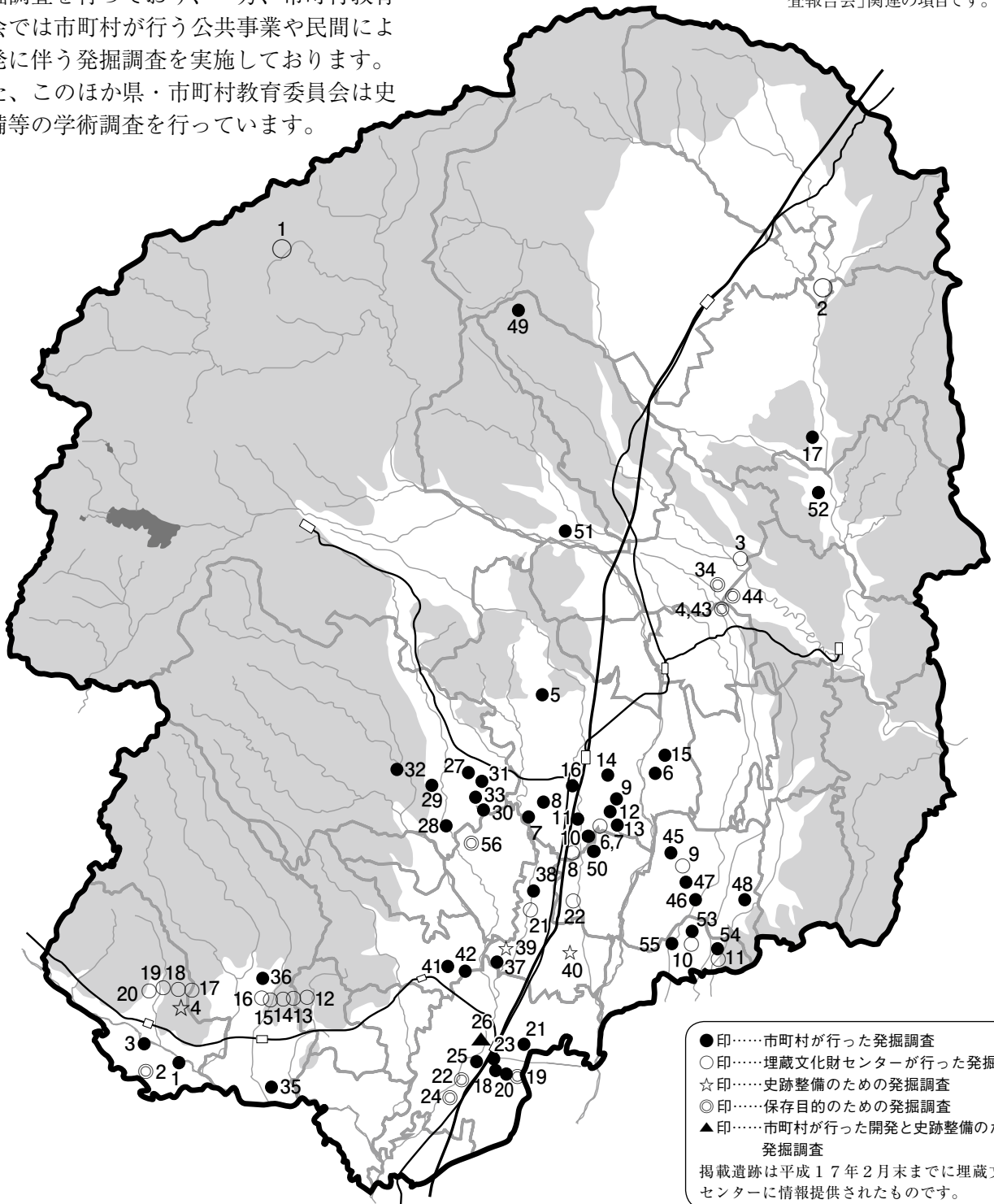
- 市町村教育委員会が行った発掘調査から
 - 高原山黒曜石原産地遺跡群……………8
 - 桃花原古墳……………9
- 平成17年度 県内発掘調査の動向……………10
- ◎平成17年度発掘調査報告会……………11
- ◎平成18年度巡回展 栃木の遺跡……………12

埋蔵文化財センターでは、国や県による道路建設、圃場整備などの公共工事に伴う事前の発掘調査を行っており、一方、市町村教育委員会では市町村が行う公共事業や民間による開発に伴う発掘調査を実施しております。

また、このほか県・市町村教育委員会は史跡整備等の学術調査を行っています。

●マークは平成18年度巡回展「栃木の遺跡—最近の発掘調査の成果から」関連の項です。

○マークは平成17年度「栃木県発掘調査報告会」関連の項目です。



- 印……市町村が行った発掘調査
 - 印……埋蔵文化財センターが行った発掘調査
 - ☆印……史跡整備のための発掘調査
 - ◎印……保存目的のための発掘調査
 - ▲印……市町村が行った開発と史跡整備のための発掘調査
- 掲載遺跡は平成17年2月末までに埋蔵文化財センターに情報提供されたものです。

平成17年度 栃木県内発掘調査一覧

埋蔵文化財センターが行った発掘調査

	NO.	遺跡名	市町名	主な時代
○	1	川戸釜八幡遺跡	日光市	縄文
○	2	ハケットンヤ遺跡	那須町	縄文
○	3	森後遺跡	さくら市	古墳～平安
◎	4	長者ヶ平遺跡	那須烏山市	奈良
○	5	北原遺跡	〃	古墳～平安
○	6	砂田遺跡ほか4	宇都宮市	縄文～近世
○	7	西刑部西原遺跡	〃	縄文・古墳他
○	8	西下谷田遺跡	〃	古墳・奈良
○	9	下陰遺跡	真岡市	縄文～中世
○	10	西物井遺跡	二宮町	縄文・奈良・平安
○	11	峰高前遺跡	二宮町	古墳～平安

	NO.	遺跡名	市町名	主な時代
○	12	寂光沢・西根2遺跡	岩舟町	縄文・古墳～中世
○	13	行屋遺跡	佐野市	中世
○	14	栃本東遺跡	〃	古墳～平安
○	15	栃本西遺跡	〃	古墳～平安
○	16	四十八塚古墳群	〃	古墳
○	17	渡戸遺跡・塩坂遺跡	足利市	古墳他
○	18	菅田古墳群	〃	古墳
○	19	田島持舟遺跡	〃	縄文～中世
○	20	和田遺跡	〃	古墳～平安
○	21	花ノ郷地遺跡ほか5	下野市	古墳他
○	22	田中・下文挾遺跡ほか	下野市	古墳他

市町村教育委員会が行った発掘調査

	NO.	遺跡名	市町名	主な時代
●	1	和泉遺跡	足利市	弥生他
◎	2	新宿遺跡ほか2	〃	古墳
●	3	反過遺跡	〃	縄文他
☆	4	樺崎寺跡	〃	中世
●	5	野沢向内遺跡	宇都宮市	縄文
●	6	竹下遺跡	〃	縄文・古墳
●	7	辻の内遺跡	〃	縄文・奈良・平安
●	8	二軒屋遺跡	〃	弥生他
●	9	根本西台古墳群	〃	古墳
●	10	立野遺跡	〃	古墳
●	11	宮の内遺跡	〃	古墳他
●	12	藤腰遺跡	〃	古墳他
●	13	東山道跡	〃	奈良他
●	14	推定東山道	〃	奈良他
●	15	野高谷薬師堂遺跡	〃	中世
●	16	宇都宮城跡	〃	中世他
●	17	岩舟台遺跡	大田原市	縄文
●	18	萩山遺跡	小山市	縄文
◎	19	横倉松山遺跡・横倉遺跡	〃	縄文他
●	20	雨ヶ谷宮遺跡	〃	縄文他
●	21	中久喜遺跡	〃	縄文他
◎	22	栗宮宮内東遺跡	〃	縄文他
●	23	神鳥谷遺跡	〃	縄文他
◎	24	乙女北浦遺跡	〃	縄文他
●	25	外城中台遺跡	〃	古墳他
▲	26	祇園城跡	〃	中世
●	27	谷頭溜遺跡	鹿沼市	旧石器他
●	28	榊山遺跡	〃	縄文

	NO.	遺跡名	市町名	主な時代
●	29	明神前遺跡	鹿沼市	縄文他
●	30	松の木遺跡	〃	縄文他
●	31	茂呂向山遺跡	〃	縄文他
●	32	段ノ浦古墳群14・15号墳	〃	古墳
●	33	上石川堀ノ内遺跡・上石川堀ノ内館跡	〃	古墳他・中世
◎	34	外山II遺跡	さくら市	奈良他
●	35	宮西遺跡	佐野市	古墳他
●	36	傾城塚遺跡	〃	古墳・奈良・平安
●	37	オトカ塚古墳	下野市	古墳
●	38	前川原遺跡	〃	古墳他
☆	39	下野国分寺跡	〃	奈良
☆	40	下野薬師寺跡	〃	奈良
●	41	田通遺跡	栃木市	古墳他
●	42	下野国府跡	〃	奈良・平安
◎	43	長者ヶ平遺跡	那須烏山市	奈良他
◎	44	助治久保遺跡	〃	奈良他
●	45	亀山II遺跡	真岡市	縄文
●	46	八木岡I遺跡	〃	縄文他
●	47	西高間木遺跡	〃	奈良
●	48	仏生寺北I遺跡	〃	奈良他
◎	49	高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区	矢板市	旧石器
●	50	磯岡遺跡	上三川町	古墳他
●	51	中島遺跡	塩谷町	古墳他
●	52	駒形大塚6号墳	那珂川町	古墳
●	53	西物井遺跡	二宮町	縄文・奈良～平安
●	54	峰高前遺跡	〃	古墳～平安
●	55	大和田古墳群	〃	古墳
◎	56	桃花原古墳4次	壬生町	古墳

埋蔵文化財センターが行った発掘調査から

ハッケトンヤ遺跡(那須町) 🔍

遺跡は、眼下に那珂川と余笹川の合流点を望むことのできる高久丘陵の突端にあります。崖下の水田からの比高は20mほどで眺望が良く、急な崖の上という意味で伝えられるハッケトンヤという地名の由来にもうなずけます。

この遺跡は、すでに大正時代の黒川発電所の建設工事や国道294号の改修工事の際に、地元の考古学者である渡辺龍瑞氏が縄文土器や石器を採集しています。また、昭和35年には南側に位置する舟戸古墳群とともに、町の史跡に指定されています。

今回の発掘調査は、国道294号稲沢バイパス建設に先だって平成17年4月から8月まで実施しました。

遺跡の西側に当たる1,300㎡ほどの面積でしたが、縄文時代中期後半から後期前半にかけての竪穴住居跡14軒、埋甕3基、貯蔵穴や墓壙、落とし穴(陥し穴)といった土坑100基以上と、縄文土器や石器(石鏃・石匙・石斧・石皿・磨石・凹石・石棒)、土製品(土偶・腕輪・耳飾・土錘)などの遺物が出土しました。

特に、この遺跡では縄文時代中期後半の竪穴住居跡に、福島県をはじめ東北地方南部で発達する複式炉という囲炉裏が造られています。この複式炉は、下左写真(SI-14)のように、炉の一端に炭(灰)壺に使う土器を据え置いた形が基本ですが、下右写真(SI-01)のように炉の底面に段差を付けたものなど、様々な形



全景空撮写真(南東から)

が見られます。また、遺物では磨り石や石皿といった木の実を磨りつぶす道具が非常に多く出土しました。

このことは、当時の人々がドングリなどの木の実やヤマイモなどの根茎類といった食料を盛んに利用したことがわかります。

この他に調査区の南側から切通しの道路跡を発見しました。これが作られた時代が分かる遺物は出土しませんでした。当地の小字名が舟戸といい、古代の東山道や中世の関街道の那珂川の渡河地点と推定されていることから、これらの道路跡かもしれません。



竪穴住居跡(SI-14 東から)



竪穴住居跡炉跡(SI-01 東から)

田島持舟遺跡(足利市)

この遺跡は北関東自動車道の建設に伴って調査している遺跡で、足利市北側の丘陵に接する谷筋に位置します。遺跡の範囲は、田島川を挟んで東西に長く、東端は菅田古墳群に隣接しています。縄文時代から中近世の集落跡ですが、地点により遺構のある主な時代が異なります。

弥生時代

田島川の東側低地部分から集落跡が見つかりました。遺構は竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構3基、周溝状遺構3基のほか、遺物集中地点(包含層)が5地点あり、田島持舟遺跡調査の中で、最も重要な成果が得られています。

周溝状遺構のうち1基は、幅約2m、径15～18mの楕円形に巡る比較的規模の大きな溝で囲まれた遺構です。この中には1軒の竪穴住居跡があり、2つの遺構は同じ時期のものと考えられます。

このような弥生時代における周溝状遺構+住居跡という組み合わせの例は、近年関東各地をはじめいくつかの遺跡で見つっていますが、栃木県内では初めての発見です。共通点として他県の例も、多くが低地で見つかり、当時の集落の様子を考える上で注目されています。この内側で見つかった住居跡からは、弥生時代後期の櫛描文を特徴とする「樽式」と呼ばれる土器と、縄文を特徴とする「赤井戸式」と呼ばれる土器がまとめて出土しています。いずれも群馬県において多く出土している土器群です。この地区からは、竪穴住居跡3軒以外に、建物跡と考えられる周溝状遺構1基があります。

竪穴状遺構としたものも、炉跡や床面などが不明瞭ですが、遺物がまとめて出土していること、柱穴が見つかった例があることなどから、住居であると考えられます。遺物集中地点からは、前期や中期の土器も出土しています。

古墳時代

後期の集落跡が東側の台地～斜面部で見つかります。ここは、菅田古墳群のある丘陵裾部に向かって緩やかに高くなる台地部分です。平成18年度まで調査を予定している地区で、平成17年度は住居跡、溝



全景空撮写真(北西から)



周溝状遺構調査状況(南東から)

などを調査しました。斜面部にある浅く幅広の溝からは、土師器・須恵器が多量に出土しました。

この溝から出土した土器は杯類が多く、古墳の周溝の可能性もあります。谷に近い低い部分でもピット群や円形周溝遺構が確認されました。

中近世

田島川すぐ東側の調査区で、コの字状に掘られた大きな溝があります。上端の幅1～3m、深さ約1mで北側の長さは約80mです。溝に堆積した土からは、陶磁器、内耳土器、かわらけ、瓦、板碑、羽子板などが出土しました。さらに、木製の椀や植物の種子も見ついています。田島川西側の調査区(A区)からも、井戸跡や建物跡が確認されています。

特集

菅田古墳群(足利市)

菅田古墳群は、足利市立北郷小学校の裏山から名草町持舟の採石場へ至る丘陵上にあります。南北に長いこの丘陵の東側には名草川、西側には田島川が南に向かって流れています。古墳は、尾根上に南から北に向かって、21・22・24・25・30・31号墳の順に並び、東側斜面上部には南から北に向かって、23・26・27号墳の順に並んでいます。27号墳東側下方には28号墳、さらに東側下方には29号墳が存在します。

26・27・30号墳は墳丘が高く、横穴式石室を持ち、墳丘裾に外護列石が巡り、部分的に周堀があります。外護列石とは、横穴式石室を持った古墳の墳丘の裾や中段に巡る石列のことで、石室の築造や土の盛り上げと密接な関係を持っています。

写真の26号墳は外護列石が二段作られ、上の段は古墳を一周しています。26・27号墳では円筒埴輪が古墳を囲むように列なっています。円筒形のものの他に、男子、女子、馬、大刀、盾、矢筒をかたどったものも出土しています。



菅田 26号墳調査風景(南から)

これらの埴輪は6世紀後半に製作されたと考えられます。31号墳は墳丘がやや低く、外護列石がありませんが、横穴式石室があります。埴輪はほとんど発見できません。墳丘裾からは須恵器の坏が、石室からは大刀の柄(つか)の部分についていた銅製の金具が出土しています。この大刀は、つづく奈良時代には役人が持つようになる大刀と同じ形をとるもので、その特徴から7世紀に製作されたと考えられます。

四十八塚古墳群(佐野市)

前年度は、調査の原因や遺跡の状況、そして調査内容の一部をご紹介しました。今回は平成17年度調査として、既に終了いたしました8,500㎡についてお話ししたいと思います。右の全体写真にもあるとおり、大きさはさまざまですが、円形に掘り込まれた溝の範囲が、円墳と呼ばれる古墳です。

最も大きいものは直径が30mほどあります。今から約1400年前に造られた当時は、遺体を納めた石室があり、この上に土が小山のように盛られていたはずですが、その後の耕作や土地改良などによって、その大部分が削られてしまいました。

もう一つ、この遺跡で特徴がある時代は中世(14～16世紀)です。調査区中央部では、溝によって「コ」字状に区画された内側に、方形や長方形の穴が密集して掘り込まれています。板碑、五輪塔、古銭などが出土しており、大規模な墓域であったと考えられます。おそらく中世の人々も、古墳が遠い昔のお墓であることを知り、同じ利用を考えたのではないのでしょうか。



四十八塚古墳群航空写真(上が北)

もりうら 森後遺跡(さくら市) 🔍

森後遺跡の発掘調査は江川南部I地区の県営圃場整備事業に先立ち、平成17年4月から実施しています。遺跡は、旧喜連川町の市街地から東約3.5kmのさくら市鹿子畑地内にあり、江川左岸の低位段丘上に立地しています。標高は約145mで、範囲は約400m四方に及びます。

遺跡は国道293号を挟んで南と北にまたがっており、平成17年度は国道の北側(1区~3区、約24,000㎡)を調査しました。なお、18年度調査区の南側には、古代東山道ルートが推定されています。

今回の発掘調査で、もりうら森後遺跡は古墳時代から平安時代及び中・近世にかけて営まれた集落跡であることが判明しました。発見された遺構は^{たてあな}竪穴住居跡80軒、^{ほったてばしら}掘立柱建物跡80棟、^{へい}掘立柱塀跡3列、円形周溝遺構4基、方形竪穴遺構4基、溝跡130条、井戸跡15本、土坑・小穴約1500基等があります。

遺物は土師器・須恵器の他に石製品(砥石)、鉄製品(刀子)、木製品(井戸側・曲物)等があります。

特筆される遺構として、1区から見つかった奈良・平安時代の掘立柱塀跡と、その区画内から確認された、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡などが挙げられます。

掘立柱塀跡の規模は、確認された範囲で東辺約45m、南辺40m以上、その他の部分は調査区外のため、全容は不明です。但し、南辺塀には門と考えられる施設があります。また、区画東側の外側に沿っ



もりうら
上空から見た森後遺跡I区(北東から)

て掘られた溝跡は、掘立柱塀跡との関連が考えられます。

区画内からは竪穴住居跡が9軒、掘立柱建物跡が21棟確認されましたが、それぞれの重複関係や主軸方向の違いなどから2~3時期の変遷があったものと考えられます。

井戸跡は区画の南東隅にあります。平面形は一辺1.2mの正方形で、深さは約2.2mです。井戸の底からは、井桁状に組まれた板材(井戸側)が発見されました。このうち最大のものは、長さ約90cm、幅約30cm、厚さは約5cmありました。

遺物は底面付近から平安時代の土師器坏が3点出土しましたが、そのうちの一つには「路」と墨書されたものがあります。



掘立柱塀跡と溝跡(南から)



井戸跡(南から)

市町村教育委員会が行った発掘調査から

たかはらやまこくようせきげんさんち 高原山黒曜石原産地遺跡群(矢板市)

高原山黒曜石原産地遺跡群は、栃木県の北東部に位置する矢板市の北西端にそびえる高原山頂付近にある後期旧石器時代の遺跡です。

高原山は矢板市街地の北西約20kmに位置する成層火山で、山頂部には東に開いた爆裂火口があります。山頂部には前黒山、明神岳、鶏頂山、釈迦ヶ岳、西平岳、剣が峰の諸峰がこの火口をほぼ囲むようにそびえています。剣が峰はこれらの峰の東端にそびえ、標高は1,540mです。

遺跡群は剣が峰から大入道(1,402m)へ北東に延びる尾根の緩斜面や平坦面上にあります。

剣が峰と大入道のほぼ中間地点に1,440mのピークがあり、この地点を中心に遺跡が広がっているものと考えています。遺跡は黒褐色土や淡黄灰色土などの火山灰に覆われていますが、一部は遺跡の北側の沢(スッカン沢・那須塩原市側)に侵食され遺物が流失しています。

これらのことは、平成14年度より17年度にかけて実施してきた「高原山産黒曜石調査事業」(調査主体者、矢板市教育委員会)によるところが大ですが、遺跡発見は平成17年7月の石器石材研究会(田村隆代表)によります。

出土遺物は、試掘調査や表面採集資料によると、石槍未製品、石核、石刃、ナイフ形石器、台形石器などがあり、石槍未製品が多数出土していることが注目されます。このような出土遺物から遺跡の年代を今からおよそ2万5000年前から1万6000年前のものと考えています。

遺跡は黒曜石の原産地にあり、地形から見ても大規模である可能性があることから、範囲や性格等を明らかにする目的で本年度より発掘調査を実施する予定です。保存状態も良好で尾根上のわりには堆積土もあることから調査成果が期待されます。

(矢板市教育委員会)



Y2 地点の試掘状況



空撮(上が北)

桃花原古墳の発掘調査は、平成5年度から行われた「羽生田古墳群」の調査の一環として実施されました。当初の計画では平成13年度内に終了する予定でしたが、県内では初めて『前庭』と言われる祭りの場が完全な形で埋もれていることを確認すると共に、『前庭』から多くの金や銀で装飾された馬具類が出土したため、石室内に副葬された資料との比較を行う目的で、平成15年度には石室内の残存状況を確認する調査を実施しました。

最終的には平成17年度に古墳群周辺部の地形測量を行い、本墳の調査を完了しました。

発掘調査の結果、桃花原古墳は直径が63mで、三段に造られた円墳であることが確認され、墳丘の斜面には人の頭大の川原石が積み上げられていることも確認しました。『前庭』は石室の入口に通じる通路部とその両側に一段高く造られた平坦部からなり、『前庭』の施設は墳丘の南側を「冂」の字状に切り込み、川原石を巧みに利用して造られています。

多くの遺物は、この平坦部から出土しており、追葬の際に外に持ち出されたものと考えています。

そして偶然にも石室が壊された際に、土を『前庭』の上に流し込んだため、金銅張りの杏葉を始めとする多くの金属製品が保護されてきたと思われています。石室は

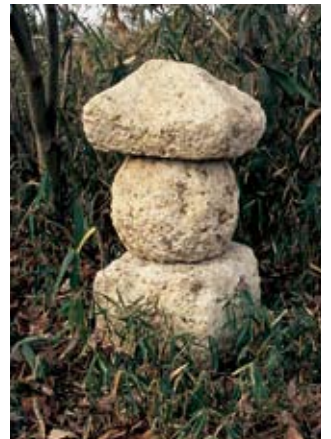
全長が約7mあり、凝灰岩で造られた「玄室」と川原石を積み上げた「前室」からなることが確認されました。石室が壊された後、石室を埋め戻した土の中から、凝灰岩で造られた「五輪塔」が出土しています。石室が壊された原因として「五輪塔」を造るための石材が欲しかったからかもしれません。いずれにしても石室の破壊は大規模に行われていることが判っています。

また、本墳からは多くの須恵器の甕が出土しています。いずれも底を丸く打ち欠かれており、使用することは不可能な状態で出土しています。

これらの甕は埴輪のように桃花原古墳の墳丘を飾っていたと思われます。

この他「斧状鉄製品」と言われる儀式に使われた特殊な鉄製品も出土しており、「富士山古墳」「茶臼山古墳」の大型埴輪と合わせ、羽生田古墳群に眠る人物たちを考える上でのヒントが隠されているような気がします。

(壬生町教育委員会)



埋め戻した土から出土した五輪塔

平成17年度県内発掘調査の動向

—平成17年度 県内発掘調査の動向—

平成17年度の栃木県の発掘調査動向として注目されるのは、市町村の緊急調査は減少傾向が明確となったことである。市町村の調査は、緊急調査から保存・整備・活用を目的とした調査に様変わりした。その成果の一端をみていく。

国指定史跡の調査には、下野薬師寺跡・下野国分寺跡(下野市)、小山氏城跡(小山市)、樺崎寺跡(足利市)がある。とくに、樺崎寺跡の調査では、浄土庭園の中核となる壮大な園池の規模や構造そして変遷が判明している。ほかに、矢板市では黒曜石の集積・石器製作した可能性が指摘された高原山剣ヶ峰地区の遺跡、東山道駅路が調査された那須烏山市とさくら市の境界に位置する助治久保遺跡などの調査成果が注目される。

一方、当センターでは、北関東自動車道・県営圃場整備・国道、県道建設などに伴う緊急調査が、前年度とほぼ同程度で実施された。まず、北関東自動車道路建設に伴う調査は、茨城県よりがほぼ完了し、群馬県よりが中心になった。

調査成果を簡単にみていく。岩舟町小野寺の西根2遺跡は、三杉川の低台地上に形成された古代から中世の遺跡で、隣接する寂光沢窯跡や小野寺館跡との関係が注目される。佐野市赤見町の四十八塚古墳群は、旗川右岸の河岸段丘上に形成された後期古墳群。調査区内から13基の古墳の存在が確認され、今年度は5基の古墳と中世墓の一端を調査した。墳丘は削平されているが、当地域の古墳文化の展開を知る上での成果が期待される。

今年度の大きな成果が、足利市内での3遺跡の調査である。まず、菅田町の菅田古墳群は、名草川と田島川に挟まれた南に延びる丘陵尾根上に形成された後期古墳群。調査区には11基の古墳が所在するが、今年度は6基の古墳を調査する予定である。墓を聖域化する外護列石や埴輪列、巨石を利用した横穴式石室など、この地域の群集墳の実態を示す成果が得られた。また、丘陵上の調査は安全管理に、万全を期して調査を実施した。

菅田古墳群の西隣、田島川に面する低地と台地に形成されたのが、田島町の田島持舟遺跡である。

本遺跡で注目したいのは、B区とした低地上から発見された3軒の弥生時代後期の住居跡である。

足利地域では未開拓な分野の発見であり、今後の展開が期待される。

最後が袋川右岸の沖積地上に形成された月谷町の和田遺跡である。古墳～奈良・平安時代の100軒以上の竪穴住居跡が発見され、この地域の密度の濃い古代集落の様相の一端を知ることができる。ほかに、足利市樺崎町の渡戸遺跡の確認調査で、7世紀代前後の須恵器窯跡が発見され、今後の調査が期待される。

一方、県営圃場整備関係では、東山道駅路に隣接する奈良・平安時代を中心とするさくら市鹿子畑の森後遺跡がある。今後の調査も予定されており、成果が注目される。また、宇都宮市南部のテクノポリス地区の調査は最終段階を迎え、砂田遺跡・砂田姥沼遺跡・西刑部西原遺跡などで小規模な調査を実施した。いずれも古代～中世の遺跡であるが、西刑部西原遺跡から発見された古墳時代前期の住居跡は、当地域の歴史を考える上で重要な視点を提供することになる。

次に、縄文時代の2遺跡をとりあげる。一つは国道関係で、那須町稲沢のハケットンヤ遺跡。

那珂川と余笹川の合流点を望む丘陵端部に立地する縄文時代中・後期を中心とする遺跡で、中期後半の複式炉の付設された竪穴住居跡、後期初頭の竪穴住居跡や土器棺墓など貴重な所見が得られた。ほかに、調査区南端からは、東山道駅路の可能性が指摘される道路跡も発見された。

もう一つは、湯西川ダムに伴い日光市湯西川の川戸釜八幡遺跡。後・晩期を中心とする遺物のほかに、石組墓7基と晩期の住居跡1軒を調査した。特筆されるのは、晩期の住居跡から出土したベンガラで彩色された石冠で優品である。

最後は、重要遺跡の範囲確認を目的とした那須烏山市の長者ヶ平遺跡の調査である。調査の結果、正倉群の三方を溝で区画し、東側は遺構群がさらに延びることが判明した。なお、五ヶ年にわたる本遺跡の調査は、今回が最終年次で、平成18年度は報告書を刊行する予定である。

(前調査部長・現しもつけ風土記の丘資料館副館長 橋本澄朗)

栃木県埋蔵文化財
センター主催
栃木県立しもつけ
風土記の丘資料館
協力

平成17年度 発掘調査 報告会

埋蔵文化財センターでは前年度に調査発掘した中から、いくつかの遺跡について報告会を行っています。今年は下記の7遺跡について発表します。スライド等を使って発掘調査担当者が分かりやすく解説します。なお、今回の7遺跡の遺物・写真等はしもつけ風土記の丘資料館で開催中の巡回展にて展示されております。報告会終了後、資料館にて遺物等の解説を行います。

日時：平成18年6月10日（土）

午前10時～午後3時

場所：栃木県埋蔵文化財センター

定員：100名

入場：無料

申込：埋蔵文化財センター普及事業担当まで

電話にてご連絡下さい。(0285-44-8441)



発表遺跡

1. ハッケトンヤ遺跡（那須町）
2. 川戸釜八幡遺跡（日光市）
3. 菅田古墳群（足利市）
4. 四十八塚古墳群（佐野市）
5. 田島持舟遺跡（足利市）
6. 和田遺跡（足利市）
7. 森後遺跡（さくら市）

編集後記

この4月に調査部から異動になり普及事業の担当として、この「やまかいどう」の編集を引き継ぎました。作成の過程では多くの方々の協力をいただき、皆さんのお手元にお届けすることができました。好評をいただいております発掘調査報告会ですが、今年は6月10日（土）に開催されます。皆さんのお越しをお待ちしております。

「やまかいどう」は埋蔵文化財センター建設時に発掘調査を行った敷地内の「山海道遺跡」にちなんで命名された情報誌です。

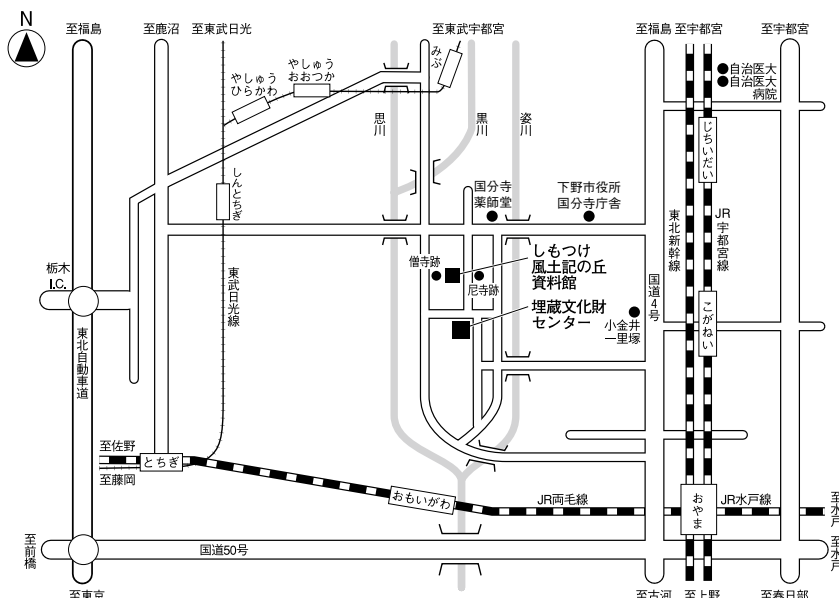
《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から約9km、車で約20分

発行 栃木県教育委員会
宇都宮市埴田1-1-20 028-623-3425
平成18年6月1日発行

編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団
埋蔵文化財センター
〒329-0418
栃木県下野市紫474
TEL 0285-44-8441(代) FAX 0285-44-8445
E-mail webmaster@maibun.or.jp
URL <http://www.maibun.or.jp/>

印刷 ヤマゼンコミュニケーションズ（株）



しもつけ風土記の丘資料館・
 栃木県立博物館・
 なす風土記の丘資料館
 平成18年度
 巡回展

栃木の遺跡

—最近の発掘調査の成果から—

☆主な展示予定資料

西暦	時代	
紀元前 10000	旧石器時代	高原山黒曜石原産地遺跡群(矢板市) 西根2遺跡(足利市)
	縄文時代	森後遺跡(さくら市)
紀元前 400		ハケットンヤ遺跡(那須町)
	弥生時代	川戸釜八幡遺跡(日光市)
紀元後 300	古墳時代(飛鳥)	桃花原古墳(壬生町)
		磯岡北古墳群(宇都宮市)
		菅田古墳群(足利市)
710	奈良平安時代	西根2遺跡(足利市)
		西下谷田遺跡(上三川町) 森後遺跡(さくら市)
1192	鎌倉・室町時代	和田遺跡(足利市)
		西根2遺跡(足利市)
1603	江戸時代	

展示室のスペースの都合により、各館の展示資料が変更になることがあります。

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されています。それらを、出来るだけ早い時期に、より多くの方にご覧頂くため、近年調査された遺跡とそこから出土した資料等を、県南・中央・県北の県立施設3館で巡回して紹介しています。ぜひご来場いただいて、文化財を身近に感じ、郷土の祖先の暮らしを振り返ってみて下さい。

巡回展示のご案内

平成18年4月22日(土)～6月11日(日)

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

下野市国分寺993 (Tel 0285-44-5049)

栃木県埋蔵文化財センター

●平成17年度発掘調査報告会

日 時:平成18年6月10日(土) 10:00～15:00

会 場:栃木県埋蔵文化財センター

研修室(詳細→11ページ)

平成18年7月22日(土)～9月18日(月・祝)

栃木県立博物館

宇都宮市睦町2-2 (Tel 028-634-1311(代))

●展示解説

日 時:8月5日(土) 13:30～15:30

平成19年2月3日(土)～3月18日(日)

栃木県立なす風土記の丘資料館

展示会場:湯津上館 大田原市湯津上192

お問い合わせは小川館へ (Tel 0287-98-3322)

●展示解説

日 時:2月3日(日) 9:00～9:30

会 場:湯津上館

●オープニングイベント

日 時:2月3日(土) 9:30～

会 場:湯津上館

●遺跡発表会

日 時:3月4日(日) 10:00～14:00

利用案内 (3館共通)

開館時間: 9:30～17:00

(入館は16:30まで)

休館日: 月曜日(祝日・休日を除く)

祝日・振替休日の翌日